

(6) 生活

①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた生活科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。現行学習指導要領では、活動や体験を一層重視するとともに、気づきの質を高めること、幼児教育との連携を図ることなどについて充実を図った。
- 各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨が概ね反映されているものと考えられる。
- 一方で、以下のような点については、更なる充実を図ることが期待される。
 - ① 活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
 - ② 幼児教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育としてなめらかに連続、発展させること。幼児期に育成する資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、ここでの生活科の役割を考える必要がある。
 - ③ 幼児教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取り組みとすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語、音楽、図画工作などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
 - ④ 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続が明確ではないこと。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

ii) 課題を踏まえた生活科の目標の在り方

(生活科の目標のイメージ)

- 生活科において、対象に直接関わる具体的な活動や体験を通して育成を目指す資質・能力を、資質・能力の三つの柱や生活科の特質を踏まえつつ、幼児教育において育みたい資質・能力とのつながりや、小学校低学年における他教科及び中学年以降の理科、社会、総合的な学習の時間を含めた各教科等における学習との関係性も踏まえた上で整理すると、概ね以下のように考えることができる。(別添7 - 1を参照)

- ・知識や技能の基礎（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かたり、何ができるようになるのか）としては、具体的な活動や体験を通して獲得する自分自身、社会事象、自然事象に関する個別的な気付きや関係的な気付き、具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能などが考えられる。
- ・思考力・判断力・表現力等の基礎（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）として、身体を通して関わり、対象に直接働きかける力や、比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力などが考えられる。
- ・学びに向かう力・人間性等（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）としては、身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度、身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度、自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信を持って学んだり生活しようとする態度などが考えられる。

- こうした資質・能力を育むために、生活科の目標としては、具体的な活動や体験を通して、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを示す。（別添7 - 2を参照）

（教育課程全体における生活科の役割とカリキュラム・マネジメント）

- 生活科を中心としたスタートカリキュラムの工夫により、小学校に入学した児童が安心して自信を持って成長し自立への基礎の形成につながることを期待される。体験的・総合的な学びから徐々に意図的・系統的な学びへと移行していくことを促しながら、その中で学校や家庭、地域での生活に必要な技能等も学んでいく。その過程においては、合科的・関連的な指導を行ったり、児童の生活の流れを大切にしたりして、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが考えられる。小学校内における組織的な取組はもとより、校区内の幼稚園、保育所等と連携し、子供の育ちの現状、育成を目指す資質・能力等についてのイメージを共有し、共に考えていくことが必要である。
- 中学年は、生活科の学習が終わり理科や社会科の学習が始まるなど、具体的な活動や体験を通じて低学年で身に付けたことを、より各教科の特質に応じた学びにつなげていく時期である。指導事項も次第に抽象的な内容に近づいていく段階であり、そうした学習に円滑に移行できるような指導上の配慮が課題となる。生活科においては、低学年の未分化で一体的な学びの特性を生かし、幼児期に育成された資質・能力を発揮するとともに、学びを自覚し自ら学習に向かうこと、学級の友達と学び合うこと、体験と言葉を使って学ぶことなどを意識していくことが大切になる。
- また、生活科の体験を通した一体的な学びは、総合的な学習の時間における各教科等の「見方・考え方」を生かした学習につながっていく。幼児期、小学校低学年、中学年

だけでなく、さらにその先につながっている生活科であるということを改めて示しておくことが必要である。

iii) 生活科における「見方・考え方」

- 生活科では、具体的な活動や体験を通して、児童の生活圏に存在する身近な人々、社会及び自然を学習の対象として扱う。その際、対象を自分との関わりで捉えることともに、人々、社会、自然を一体として捉えることが特徴である。
- 具体的な活動や体験を通して捉えた対象については、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握するとともに、試行したり、予測したり、工夫したりなどして新たな活動や行動を創り出していくことを通して、自分自身や自分の生活について考え、そこに新たな気づきを生み出すことを期待している。こうして児童はそれぞれの対象のよさや特徴、自分との関係や、対象同士の関わりに気付いていく。
- これらを踏まえ、生活科の特質に応じた「身近な生活に関する見方・考え方」としては「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること」とする。

②具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 生活科における資質・能力を育む学習過程は、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いを持ち、具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わる中で感じたり考えたりしたことを表現し、行為していくプロセスと考えることができる。(別添7-3を参照)
一人一人の思いや願いを実現していく一連の学習活動を行うことにより、児童の自発性が発揮され、一人一人の児童が能動的に活動するようになること、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていくことが重要である。
- 具体的な活動や体験を通して、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握するとともに、試行したり、予測したり、工夫したりなどして新たな活動や行動を創り出すことを通して、自分自身や自分の生活について考え、個別的な気づきが関係的な気づきへと質的に高まるなど、新たな気づきを生み出すことが期待される。
- 熱中し没頭したこと、発見や成功したときの喜びなどは表現への意欲となり、他者に伝えたり、交流したり、振り返って捉え直したりして表現する活動を行うことにつながる。小学校に入学したばかりの時期においては、伝え合い表現する学習活動を行うことが学びの振り返りになる。活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚な気づきが自覚的になったり、一つ一つの気づきが関連付いたりするという意義を持つ。表現することを通じて振り返るという学習を重視する必要がある。

イ 指導内容の示し方の改善

- 生活科では、内容構成の基本的な視点として、「自分と人や社会とのかかわり」「自分と自然とのかかわり」「自分自身」の三つを示しつつ、九つの内容項目と11の視点を示すとともに、それを育む学習活動が実現するよう15の学習対象を示してきた。(別添7-4を参照)

こうした生活科の内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、生活科の三つの基本的な視点を踏まえて、その構成を見直す必要がある。

- 具体的には、各内容項目について、学習対象を基に内容を構成するのではなく、①伸ばしたい思考力・判断力・表現力等が発揮され、認識を広げ、期待する態度を育成していくという点を重視して整理し、②そうした資質・能力を育成するためにふさわしく、児童の身の回りにある学習対象を、児童の実態や学習環境の変化、社会的要請等を踏まえて示すことで、内容を整理することが適当である。
- 特に、思考力等については、これまでの目標の中で必ずしも明確に示されていないことから、できるだけ具体的に示すようにすること、認識を広げることについては、個別の気付きを関係的な気付きとして質が高まるようにすること、11の視点で示してきた児童の姿(態度)については、幼児期の終わりまでに育てたい幼児の姿との関連や、中学年以降の各教科等における学習との関連を考慮しながら見直す。
- 目標や内容の示し方は、現行の2年間を通した設定を前提としつつ、第1学年、第2学年の発達の違い、経験の違いなどを考慮した示し方を工夫する。

ii) 教育内容の改善・充実

- 生活科においては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことを大切にすることとしてきた。多様性を尊重する社会づくりという視点から、この視点を今後、更に重視していく必要がある。
- 健康で安全な生活を営むことについての内容は、生活科の指導の全般にわたっている。教育課程全体で防災を含む安全教育を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、その育成に必要な各教科等における指導内容を系統的に示す中で、生活科の教育内容について健康・安全の視点からの充実を図る。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- アクティブ・ラーニングの視点による生活科の授業改善は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識することが重要である。

①「主体的な学び」の視点

- ・生活科では、子供の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現を行い伝え合う活動の充実を図ることが必要である。
- ・小学校低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しく、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの学習活動を振り返る。振り返ることで自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付いていく。自分自身への気付きや、自分自身の成長に気付くことが、自分は更に成長していけるという期待や意欲を高めることにつながる。
- ・学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうとする子供の姿を生み出す。こうしたサイクルが「学びに向かう力」を育成するものとして期待することができる。

②「対話的な学び」の視点

- ・生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることが大切である。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気付きが生まれたり、関係が明らかになったりすることが考えられる。他者との協働や伝え合い交流する活動は、一人一人の子供の学びを質的に高めることにもつながる。
- ・また、双方性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付くなどして「対話的な学び」が豊かに展開されることが求められる。

③「深い学び」の視点

- ・生活科では、思いや願いを実現していく過程で、一人一人の子供が自分との関わりで対象を捉えていくことが生活科の特質であると言える。
- ・「身近な生活に関する見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなどの「深い学び」を実現することが求められる。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教員の関わりが求められる。

イ 教材や教育環境の充実

- 地域は、児童にとって生活の場であり学習の場である。地域の文化的・社会的な素材や活動の場などを見いだす観点から地域の環境を繰り返し調査し、それらの素材を教材化して最大限に生かすことが重要である。

- 飼育動物や栽培植物といった生きた教材は、児童にとって直接的な体験の機会が減っている中で大きな意義を持つものであり、引き続き充実を図ることが必要である。
- スタートカリキュラムについては、入学当初の児童の生活面の支援に関する人的なサポートも含め、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせるカリキュラム・マネジメントが重要となる。校区内の公立私立の幼稚園等との連携体制、教育委員会と首長部局の連携も望まれる。
- 児童の体験的な活動を重視した学習を実施するため、学校内外の様々な人的な協力、交流が必要となる。学校と地域の円滑な協働体制の構築、関連する施設との連携、獣医師等の専門家の協力も必要である。

生活科において育成を目指す資質・能力の整理（素案）

別添 7-1

	視点 【自分と人や社会とのかかわり】 健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公衆の意識とマナー、生産と消費、情報と交流（ア～カ）	学習対象 ①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭 ⑦地域で生活したり動いている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事	知識・技能の基礎 （生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか）	思考力・判断力・表現力等の基礎 （生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）	学びに向かう力・人間性等 （どのような心情、意欲、態度などを育み、よい生活を営むか）
生活小学校	【自分と自然とのかわり】 身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫（キ～ケ）	■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、社会的な活動や体験を通して形成する、社会的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、自然事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能 （コ、サ）	■ 身体を通して関わり、対象に直接働きかける力 ■ 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点をええたりして対象を捉える力 ■ 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う ■ 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力 ■ 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■ 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度 ■ 身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度 ■ 自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする態度	

小学校 中学年

小学校 低学年

教科等の特質に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育むとともに、教科横断的にそれらを総合・統合していく学び

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、**幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期**

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりするなど、**意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方・考え方」や資質・能力を育む時期**

遊びや生活の中で、**幼児期の特性に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育む学び**

< 本就園段階： 家庭や地域での生活 >

社会

社会的現象の見方・考え方
位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的現象を見出し、比較・分類したり総合したり、国民の生活と関連付けること

総合的な学習の時間

探究的な見方・考え方(案)
各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けること

理科

理科の見方・考え方
身近な自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど、問題解決の方法を用いて考えること

国語
算数

生活科

< 身近な生活に関わる見方・考え方(案) >
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次のように育成することを目指す

- 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する
- 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる

音楽
図画工作
体育
道德
特別活動

接続

「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量・図形、文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

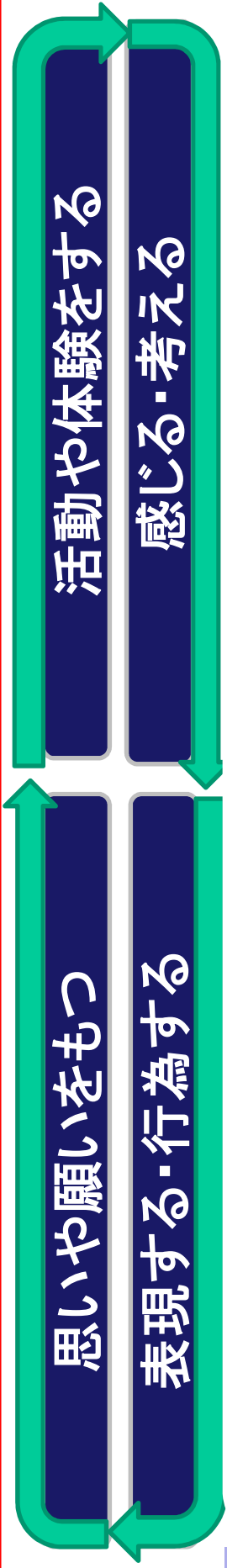
豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児教育

※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につなかりを考えていくことが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したのではない。

生活科の「見方・考え方」(身近な生活に関する見方・考え方)
 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、
 比較、分類、関連づけ、試行、予測、工夫することを通して、自分自身や自分の生活について考えること



思考力・判断力・表現力等

- 対象に関心を持つ
- 身体全体で対象と関わる
- 自ら対象に働きかける

- 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を換えたりして対象を捉える
- 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う
- 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す

- 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する
- 生活に生かしたり、生活を豊かにしたりする

学びに向かう力・人間性等

- 探究心 他者尊重 地域への愛着 適切な関わり 公共 安全 (主に人や社会との関わり)
- 好奇心 自然との触れ合い 感性 生命尊重 創造 (主に自然との関わり)
- 意欲 自信 成長 自分らしさ 感謝 (主に自分自身)

知識・技能

- 人、社会、自然に対する個別的な気付き (例: 学校生活を支えている人々がいること、季節によって生活の様子が変わること など)
 - 人、社会・自然に対する関係的な気付き (例: 空間の中でつながり関わっていること、きまりや一定の変化があること など)
 - 自分自身への気付き (例: 自分自身が成長したこと、役割が増えたこと など)
- 具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能(例: 生活のリズム・病気の予防・ルール・マナー・道具を使って物を作る・動植物の世話ができる など)

資質・能力の3本柱 : 知識・技能の基礎
(生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感ずたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎
(生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

学びに向かう力・人間性等
(どのような心構、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)

生活科の3つの視点 : 自分と人や社会とのかかわり(●)、自分と自然とのかかわり(■)、自分自身(◆)

生活科の内容項目（平成20年3月告示）

(1)	学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことなどが分かり(●)、楽しく安心して遊びや生活ができる(●)ようにするとともに、 <u>通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち(●)、安全な登下校ができるようにする(●)。</u>
(2)	<u>家庭生活を支えている家族のことや自分ですることなどについて考え(●)、自分の役割を積極的に果たすとともに(◆)、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする(◆)。</u>
(3)	自分たちの生活は <u>地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり(●)、それらに親しみや愛着をもち(●)、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする(◆)。</u>
(4)	<u>公共物や公共施設を利用し(●)、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり(●)、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする(●)。</u>
(5)	<u>身近な自然を観察したり(■)、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして(●)、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること(■)に気付き(■)、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする(●)。</u>
(6)	<u>身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊ばしに使う物を工夫して作り(■)、その面白さや自然の不思議さに気付き(■)、みんなが遊ぶことを楽しむことができるようにする(●)。</u>
(7)	<u>動物を飼ったり植物を育てたりして(■)、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち(■)、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き(■)、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする(■)。</u>
(8)	<u>自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い(●)、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり(●・◆)、進んで交流することができるようにする(●)。</u>
(9)	<u>自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり(◆)、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする(◆)。</u>